

## 燃料研究棟汚染事故に係る対応（週報7/31～8/4）

### 概況

燃料研究棟汚染事故に係る対応につきましては、本日より週報の形式で紹介いたします。

7月31日～8月4日に実施した、主な対応等は以下のとおりです。

- ・ 貯蔵容器内の破裂した樹脂製袋の内容物及びフード\*1 前に飛散していた試料は、現在、観察を行っています。
- ・ 汚染事故の発生場所である 108 号室の床面の除染作業を実施していません。
- ・ 樹脂製袋が破裂した原因については、現在、複数のメカニズムを想定し、実験や検討を進めています。なおエポキシ樹脂にアルファ線を照射するとガスが発生するメカニズムについては、その長期間の挙動を模擬する実験と測定を行っています。
- ・ 作業員 5 名に対しては、面談等によりケアを継続しています。特段、体調の変化はありません。

\*1 フード；非密封の放射性物質を用いた実験などを行う場合に、作業員及び環境への放射性物質による汚染等を防止するための局所排気装置。

### 現場復旧

- 108 号室（事故発生場所）の現場復旧に向けた措置
  - ・ 床面の汚染検査・除染作業を実施しています（8/3～）。
- ※ 作業内容の詳細は、  
[-108号室の汚染検査・除染作業](#)  
をご参照ください。

### 原因究明

- 内容物の同定
  - ・ 燃料研究棟にはプルトニウム及び濃縮ウラン用の貯蔵容器が 80 個あり、それらの帳票類の履歴調査を実施しました。現在は今後の貯蔵容器の点検方法等の対策の検討に反映するため、その結果を取りまとめています。

- 破裂メカニズム
  - ・ 破裂した樹脂製袋の中のポリ容器には核燃料物質と混合したエポキシ樹脂が収められていました。この樹脂が長期間にわたってアルファ線の影響で分解しガスが発生する現象を模擬するため、分解による樹脂の重量減少と密閉状態での内圧変化を測定しています。8月下旬までに得られたデータを、樹脂製袋の内圧上昇の評価に反映する予定です。
- 貯蔵容器内収納物及びフード前飛散物の観察
  - ・ 貯蔵容器から取り出した収納物及びフード前の飛散物の観察等を行っています（8/1～）。
- ※ 作業内容の詳細は、
  - [貯蔵容器内収納物及びフード前面飛散物の詳細外観観察](#)
  - [貯蔵容器内収納物の外観観察写真](#)をご参照ください。

## 被ばく評価

- 被ばく評価
  - ・ 放射性物質の摂取に至った要因事象を調査するため、108号室内で採取したスミヤろ紙\*2を照射燃料集合体試験施設（FMF）にある走査電子顕微鏡（SEM）\*3を使って観察しています。
  - ・ また、上記と同じ目的のため、作業者が装着していた半面マスクの汚染状況の調査を固体廃棄物前処理施設（WDF）\*4において実施しています。
- ※ 作業内容の詳細は、
  - [燃料研究棟で作業者が着用した半面マスクの廃棄物処理](#)をご参照ください。

\*2 スミヤろ紙；原子力施設等で放射性物質による汚染状況を確認するために、目的とする場所をふき取ることによって採取したものの放射エネルギーの測定を行う。この「ふき取り」に利用するろ紙をスミヤろ紙という。

\*3 走査電子顕微鏡（SEM）；電子線を試料に当てて表面を観察する顕微鏡であり、X線検出器を取り付けて元素分析を行うこともできる（Scanning Electron Microscope）。

\*4 固体廃棄物前処理施設（WDF）；大洗研究開発センター内の燃料材料試験施設から発生する放射性固体廃棄物のうち、廃棄物管理施設で直接受け入れて処理することが不可能な大型の固体廃棄物及び減容効果の期待できる雑固体廃棄物等の除染、解体等の前処理を行う施設（Waste Dismantling

Facility)。

## その他

- 外部対応
  - ・ 原子力規制庁と定例面談等を行い、以下の事項について説明しました。
    - 前日の作業実績と当日の予定について (7/31~8/4)
    - 貯蔵容器内収納物及びフード前面飛散物の詳細外観調査作業計画書について (7/31) 他
- ※ 原子力規制庁との面談内容の詳細は、
  - [原子力規制庁への提出資料](#)をご参照ください。

以上